アルゼンチン通信

第9号　2025年04月30日発行(毎月月末発行予定)
JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理
玉東町グローカル2024年03月卒業生　鈴木功二

・アルゼンチンのサンティアゴ デル エステロは、4月に入って秋が深まるかと思ったのですが、実際には最高気温が30℃近くの日(最低気温は20℃ほど)もあれば、最高気温が20℃近くの日(最低気温は10℃ほど)もあって、1日内の温度差だけでなく、日毎の温度差も10℃以上あるので、服装でこまめに調整する必要があります。

日本で秋の味覚と言えば、栗や松茸、サンマを思い浮かべますが、こちらでは秋を象徴する食べ物はないようです。日本では、「まごわやさしい」といった健康的な食事を心がけるために意識して摂りたい7つの食材(「豆類」「ゴマ」「わかめ」「野菜」「魚」「椎茸」「いも類」)の頭文字をとった言葉がありますが、こちらでは、「わかめ」類や「椎茸」類はなく(マッシュルームもない)、魚はスーパーマーケットで冷凍物だけです。でも、肉は美味しく、肉屋は毎日開いていて、手に入りやすいので、毎日が肉の食生活です。次の健康診断が心配です。

こちらでは、4月2日が「マルビーナス戦争戦没者の日」で休日でした。日本の特に若い人は知らないかもしれませんが、イギリスが実効支配しているフォークランド諸島(アルゼンチン名はマルビーナス)の領有を巡って1982年4月02日に起きたイギリスとアルゼンチンの間の紛争です。私の近所の公園でも特設ステージが設置されて追悼集会が開かれました。

また、毎年変動しますが、4月17日の週はイースター(キリスト教の復活祭)でした。イースター用のタマゴの形をしたチョコレートが売られていたり、教会ではほぼ毎日ミサが行われ、バイクと自転車でイースターにちなんだ場所を巡るイベントがありました。

近所の公園で戦没者の碑に
花輪を捧げる儀式

今回は、こちらで初めて歯医者に行き、久し振りに長距離バスに乗ったので、そこで私が感じた違いを10項目に絞って紹介します。

（1）日本の歯医者との違い

1）診察券がない。ドイツでは診察券がなく、タイでは診察券がある。日本では、診察券に次の予約日時を記入してもらえたりするので、あれば便利です。

2）カルテがない。歯全体の状態や どこをどう治療したかの記録がなくても大丈夫なのかな？

3）歯医者が予約の受付から治療、領収書の発行まで全て一人で行っているので大変。ドイツやタイでも、受付や会計といった事務と治療は分業していた。

4）予約はワッツアップ(日本ではラインが一般的)のチャット機能を使って予約する。日本やその他の国では電話で予約していたので、チャットで予約できるのは便利だ。

5）レントゲン写真では、歯医者の指示に従って、患者(私)がシャッターを押した。歯医者の両手がふさがっていた為で、自分がシャッターを押すのは初めてだ。また、放射性物質の防護エプロンを着用しない。効果はあまりなく気休め程度と言われているので、防護エプロンはなくてもよいか。

6）歯のクリーニングをするのに洗浄液を使わないので、液の吸引器も使う必要がない。歯石を取りながら布のようなもので拭き取るだけだった。

7）患者は前掛けエプロンをつけない。そもそも液を使わないので液が飛び散ることがなく、エプロンは不要かな。

8）歯科診療用のイスに取り付けられたライトを使わない。薄暗い部屋の中で、歯の治療器具の先にライトをつけて治療する。光の眩しさを嫌がるアルゼンチン人が多い為だろうか。

9）電子マネーで支払いができるのは便利。日本では、まだ現金が一般的で、クレジットカードや電子マネーで支払うことができる医院はごく一部。

10）歯科医院の外観は普通のアパートで看板はない。表札の名前を見て初めて歯医者とわかる。日本では通常、看板がある。

日本では、このような看板があり、
一目で歯科であることが判る。

（2）日本の長距離バスとの違い

私が住んでいるサンティアゴ デル エステロから首都のブエノスアイレスまで、距離は約1100キロ、約16時間のバスに乗りました。

1）窓口で往復切符を買ったのだが、往きも帰りもバス会社が同じなのに切符の様式が異なる。理由を訊いたが判らなかった。細かなことは気にしない。

2）ネットで買うより窓口で買う方が少し安い。ネットで買う方が売り手の手間が省けるので安くなるのが普通。日本にはネット割引がある。

3）時刻表や途中駅の停車スケジュールがない。切符を見れば乗車と降車予定時間が判るし、バス車内でグーグルマップを見れは今いる位置が判るので、細かなことは気にしない。

4）バス乗り場は直前になっても決まらない。私の場合、窓口では「10番近く」と言われたが実際は「14番」だった。バスの車体のロゴで判るので、細かなことは気にしない。但し、ブエノスアイレスのバスターミナルでは、出発スケジュールのモニターがあって、バス乗り場はすぐに判った。アルゼンチンといっても広いので、ターミナルによって違うようだ。

5）都市高速道路はあるが、都市間の車両専用高速道路はない。もっぱら一般国道を走ることになるが、信号がほとんどないので、時速100キロぐらいで走り続ける。日本では、都市間の車両専用高速道路を通行するのが普通。

6）車内アナウンスが全くない。運転手さんからの挨拶や注意事項等の説明はない。シートベルトを締めるように言われることはない。日本では、特に高速道路に入る前は、シートベルトを締めるように何度もアナウンスがある。

7）約16時間の間、休憩停車があったのは30分だけ。途中のバスターミナルで停車することはあるが、ほとんど走り続ける。バスのトイレは日本と比べれば広いので、乗車したままでも困らないが、運動不足にはなる。

8）運転手によって、休憩後の出発前に乗客が全員いるかを点検をする人としない人がいる。定刻前に出発することもあるので、私は置いてきぼりにされないようにバスの近くで運動した。

9）途中で渋滞がなかったのに、到着は1時間50分遅れた。日本も、台風のような自然災害や交通事故による渋滞で遅れることはあるが、ほとんど走りっぱなしなのに、2時間近く遅れることはない。

10）毛布やスリッパ等、備品の貸し出しはない。就寝時は冷えるので、外が暑くても防寒対策は必要。

30年前、長距離バスに乗った時は、ベンツのバスで機内食のような食事とワインが提供された記憶があります。日本よりも豪華な印象を持っていました。今回、食事は提供されませんでしたが、乗り心地はよかったです。

長距離バスは2階建て

日本のバスより広いトイレ

平原が延々と続く、トンネルはない。

(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二